

令和6年度

授業改善推進プラン【前期課程】

- ①令和6年度北区立小学校学力向上を図るための全体計画(様式1)
- ②令和6年度第2～6学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析(様式2)
- ③指導方法の課題分析と具体的な授業改善案 5教科(様式3)

東京都北区立都の北学園

令和6年度「北区基礎・基本の定着度調査」を受けての各教科の分析	
国語	3年、6年以外は、校内正答率が区平均を上回っています。3観点のうち、「思考・判断・表現」において、目標値、区平均、全国平均のいずれも上回っている学年が多いです。
社会	5、6年ともに、区平均を下回っています。「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の観点で下回っています。教科全体的に見て、基礎分野も活用分野も平均を下回っています
算数	半数の学年が区平均を下回るという結果になりました。高学年は「データの活用」ができていないようです。「割合」「円グラフ・帯グラフ・平均」において正答率が低く、無解答率も高くなっています。間違いを指摘して説明する問題等、記述問題に対しての無解答率が高く正当率が低いです。
理科	4年はやや区平均を上回っていますが、5年、6年は下回っています。5年、6年の観点別正答率「主体的に学習に取り組む態度」が3ポイント程度、目標値も区平均も下回る結果となっています。
外国語	6年生のみの実施ですが、区平均を1.5ポイント下回りました。「書くこと」では、3.3ポイント下回り、英文を完成させる問題や英作文で、無解答や単語の書き間違いが多い結果となっています。

本校が児童に育成したい力
○基礎的・基本的な知識・技能の定着・向上 ○家庭学習の習慣化 ○各教科の思考力・判断力・表現力の育成 ○学びに向かう力の育成

校内における学力向上推進体制
○校内研究を日々の授業に生かし、各教科の系統性を見通した授業改善の実践を行っていく。 ○ICTを有効に活用し、分かりやすく創意工夫された授業をして、学力の向上を図る。 ○授業についての情報交換・意見交流を活発に行い、授業力の向上を目指す。

本校の授業改善に向けた視点				
指導内容・指導方法 の工夫	教育課程編成上 の工夫	校内における研究 や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との 連携の工夫
・各教科の単元・題材のまとまりの計画を立ててから授業に臨む。 ・課題に応じた指導に重点を置き、基礎基本の定着を図る。 ・学力パワーアップ講師と連携し、個別指導を充実させ、個に応じたきめ細かい指導を実践する。 ・きたコンの活用を充実させ、基礎基本の定着や考えの共有による学びの深まりを実現していく。	・放課後に「学力フォローアップ教室」を実施し、学力の個人差の大きさに対応する。 ・前期課程、後期課程の系統性を明確にし、それを生かして日々の授業改善を行っていく。 ・GIGAスクール構想におけるきたコンを活用とした授業を実施する。	・研究主題が「自ら学びつつける児童・生徒の育成」である校内研究を推進し、9年間の系統性を見通した授業改善を行い、児童の学びに向かう力を育成する。研究推進委員会を中心に計画的し、組織的に実施する ・教員同士の授業参観や交換授業等のOJT研修を積極的に行い、それぞれの授業力を向上させる。	・指導計画と一体化した評価計画により、評価を行う。評価規準を明確にし、個々の児童に応じた評価を行う。（絶対評価） ・児童のノート・ワークシートの記録や授業での様子の観察等から、一人一人の学習の成果を考察する。 ・振り返りの活動を重視し、児童がその時間にどのようなことを学んだのかを自分で確認させるとともに、教師がそれを価値付けていく。	・学校での教育活動を積極的に公開したり、授業の様子やねらい等を伝えたりすることで、協力して子どもを育てる意識をつくっていく。 ・個別懇談や保護者会等を通して、保護者と教員による児童の相互理解を図る。 ・家庭学習の重要性を個別懇談や保護者会等で継続的に伝え、家庭の協力を得ながら指導を進める。 ・保護者や学校運営協議会による学校評価を実施し、学校での教育活動をよりよいものに改善していく。

本校の教育目標
社会の急速な発展に伴う教育的課題に対応するとともに、発達段階に応じた9年間の切れ目のない指導を展開し、地域と共にぬくもり溢れる学び舎で、ふるさと北区の一員としての自覚をもち、国際社会で活躍できる児童・生徒を育成する。 1. 自分と他人のよさを認め、互いを思いやる心豊かな人(豊かな心) 2. 自ら考え正しく判断し、ねばり強くやり遂げる人(学びつつける力) 3. 心も体も健康で、仲間とともに取り組む人(すこやかな体)

学力向上にかかわる経営方針
・各教科の単元、題材のまとまりの計画を立ててから授業に臨む。計画は週案簿に明示する。 ・ICT機器を日常的に活用し、分かる授業を目指す。 ・学習する児童生徒の視点に立ち、授業を見直し改善する。 ・「授業改善推進プラン」は策定直後からプランに基づく授業改善に日々取り組む。 ・習熟度別少人数指導を実施し、個に応じた指導を展開することで、確かな学力の定着を図る。 ・正しい日本語を用いて指導に当たる。 ・多様なニーズに対応できるよう、教材準備に努める。

〔様式2〕 令和6年度 第2学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析
東京都北区立都の北学園

国 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
校内の平均正答率は79.3ポイントと目標値を7.6ポイント、区平均を2.4ポイント上回っています。内容別正答率でみると、「物語を読み取る」が2.8ポイント、「説明文を読み取る」が6.5ポイントと区平均を上回っています。一方、「漢字を読む」が0.8ポイントとわずかに下回っています。	目標値と比べると、「知識・技能」は4.2ポイント、「思考・判断・表現」は7.9ポイント上回っています。一方で、「主体的に学習に取り組む態度」は3.0ポイント下回っています。	内容と観点、それぞれ分析すると、どちらもほぼ目標値を上回っているため、前年度の学習は身に付いていると分析します。「見たことをもとに発表する」と「文章を書く」は目標値を僅かに下回っているため、授業での発表準備や文章を書く機会を増やして、力を付けていくことが課題です。
算 数		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
校内の平均正答率は84.7ポイントと目標値を8.9ポイント、区平均を1.5ポイント上回っています。内容別正答率でみると、全ての項目で目標値、区平均を上回っており、特に「3つの数の計算」と「絵を使ったグラフ」で目標値より10ポイント以上上回っています。	3観点とも目標値、区平均を上回っています。目標値と比較すると、「知識・技能」が9.1ポイント、「思考・判断・表現」が8.2ポイント、「主体的に学習に取り組む態度」は7.0ポイント上回っています。	内容と観点、それぞれ分析すると、全て目標値を上回っているため、前年度の学習はしっかり身に付いていると分析します。基礎的な計算は今後も継続して授業内で取り組み、文章を正しく読み取り立式して問題解決する力を付けていけるようにします。

〔様式2〕 令和6年度 第3学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析

国 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
校内の平均正答率は73.8ポイントと目標値を2.8ポイント上回っています。しかし区平均からは3.3ポイント下回っています。内容別の正答率では区目標値は全ての項目で上回っているものの、区平均と比較すると全ての項目で下回っています。特に「物語や説明文の読み取り」における正答率は4～5ポイント程度下回っています。	3観点とも、目標値を上回っています。しかし、区平均と比較すると、「知識・技能」が2.7ポイント、「思考・判断・表現」が3.9ポイント、「主体的に学習に取り組む態度」が4.4ポイント下回っています。	内容と観点それぞれの数値は、ほぼすべてで区目標値を上回っているため、前学年までの学習内容がよく身に付いていると分析します。唯一、領域「読むこと」の中の内容「物語や説明文の読み取り」に関しては、区目標値・平均値ともに下回る結果となっているため、文章の読解における思考力をどのように身に付けさせていくかが今後の課題です。
算 数		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
校内の平均正答率は77.6ポイントと、目標値を1.7ポイント上回っています。しかし、区平均からは3.3ポイント下回っています。内容別正答率では全ての項目で目標値を上回っていますが、区平均と比較すると全ての項目で下回っています。特に「測定」以外の領域における正答率は4～5ポイント程度下回っています。	3観点とも、目標値を上回っています。しかし、区平均と比較すると、「知識・技能」及び「思考・判断・表現」が3.3ポイント、「主体的に学習に取り組む態度」が2.5ポイント下回っています。	内容と観点それぞれの数値で、ほぼすべての項目で区目標値を上回っているため、前学年の学習内容は概ね身に付いていると分析します。しかし、「たし算・ひき算」、「三角形と四角形」の内容においては目標値・平均値ともに下回っているため、計算や作図の知識・技能の定着のために、既習事項をどのように復習させていくかが今後の課題です。

〔様式2〕

令和6年度 第4学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析

国 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
校内の平均正答率は77.9ポイントと、目標値を6.7ポイント上回っています。区平均も0.7ポイント上回っています。内容別正答率でみると、「文章を書く」が10.5ポイント、説明文を読む」が9.6ポイントと大きく上回っています。一方、「漢字を読む」が1.8ポイント、「調べたことをもとに文章を書く」が2.5ポイントとわずかに上回っています。	3観点とも、目標値も区平均、全国平均を上回っています。目標値と比較すると、「知識・技能」は5.2ポイント、「思考・判断・表現」は7.6ポイント、「主体的に学習に取り組む態度」は7.7ポイント上回っています。	内容と観点をそれぞれ分析すると全体的に正答率が高く、目標値も全て上回っているため、前学年の内容がほぼ身に付いていると分析します。ただし、「調べたことをもとに文章を書く」において区平均を下回る結果だったため、今後の課題と捉えます。
算 数		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
校内の平均正答率は、77.4ポイントと目標値からは7.4ポイント上回っているが、区平均正答率とは同数です。内容別正答率は「大きい数・小数・分数」は1.4ポイント、「かけ算」は3.2ポイント区平均正解率よりも下回っています。	3観点と目標値からは上回っているが、区平均正答率から比較すると「知識・技能」はも0.4ポイント下回り、「思考・判断・表現」は1.5ポイント、「主体的に取り組む態度」では、0.7ポイント上回っています。	既習事項の定着が十分でないところがあり、復習や問題演習の不足から知識・技能の習得につながっていないと考えられます。学習している分野だけではなく、既習事項の繰り返しや演習を行うことが今後の課題です。
理 科		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
教科全体の平均正答率は区の平均正答率を0.4ポイントと僅かながら上回っていますが、目標値からは0.4ポイント下回っています。内容別に見てみると、11項目中「植物の育ち方」「こん虫の育ち方」「音のせいしつ」の3項目が区の正答率を1.5ポイント以上高いです。残り8項目については区の正答率とほぼ同じ正答率で推移しています。「じしゃくのせいしつ」は目標値30%に対して、10ポイント以上低いです。	「知識・技能」に関しては67.9%の正答率で区を1ポイント、目標値を0.6ポイント上回っています。「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」については、50%前半の正答率で「知識・技能」と比較すると10ポイント以上低いです。この2観点は0.1ポイント区の平均正答率より低いという結果です。ただし、これは目標値より1ポイント程度低い値です。	内容と観点それぞれに目標値や区の正答率を下回る項目があります。この中で正答率が低い内容の「風やゴムのはたらき」「じしゃくのせいしつ」「電気の通り道」のうち、観点が「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」である設問は記述式であり、これが正答率を下回った要因と考えられます。観察や実験から導き出した自身の考えを言語化することや、粘り強く問題に取り組む姿勢を身に付けることが、今後の課題と考えます。

〔様式2〕

令和6年度 第5学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析

国 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
校内の平均正答率は72.6ポイントと、目標値を8.2ポイント上回っています。区平均も1.5ポイント上回っています。内容別正答率でみると、「文章を書く」は13.1ポイント、「スピーチをする」は11.1ポイント、「漢字を読む」は8.3ポイント、「言葉の学習」は1.9ポイント上回っています。	3観点とも、目標値も区平均、全国平均を上回っています。目標値と比較すると、「知識・技能」は5.9ポイント、「思考・判断・表現」は10.7ポイント、「主体的に学習に取り組む態度」は11.7ポイント上回っています。	内容と観点をそれぞれ分析すると全体的に正答率が高く、目標値もほぼ全て上回っているため、前学年の段階の内容はよく身に付いていると分析します。「言葉の学習」は目標値をやや上回る結果となったため、他の内容と比較すると今後の課題です。
社 会		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
校内の平均正答率は、61.9ポイントで区平均を0.9ポイント下回っています。内容別では「自然災害からくらしを守る一水害」で区平均を4.1ポイント下回り、「都道府県の様子」「ごみの処理と利用」「特色ある土地の様子」の内容では、区平均を約1ポイントずつ上回っています。	「知識・技能」の観点では、区平均をやや上回っているものの、「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の観点では、ともに区平均を3.2ポイント下回っています。	内容と観点をそれぞれ分析すると全体的に正答率が低くなっています。特に「自然災害からくらしを守る活動」「伝統や文化、先人の働き」の定着が低く、今後の課題です。
算 数		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
校内の平均正答率は67.2ポイントと目標値を3.9ポイント上回っています。しかし区平均からは1.8ポイント下回っています。内容別正答率では、ほとんどの項目で目標値を上回っていますが、区平均から見ると、同等もしくは下回っているものが多いです。特に「面積」「分数」が大きく下回っています。	3観点とも目標値は上回っています。しかし区平均で見ると、「知識・技能」が2.2ポイント「思考・判断・表現」が0.3ポイント、「主体的に学習に取り組む態度」が2.4ポイントと、どの項目についても下回っています。	「知識・技能」に比べ、「思考・判断・表現」の方が21.1ポイント下回っています。特に「変わり方調べ」の値を求める方法を説明する問題や「折れ線グラフと表」の間違いを指摘して説明する問題等、記述するものに対しての無解答率が高く、正当率が低いです。
理 科		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
校内平均正答率は目標値に対して、0.8ポイントとやや下回っていますが、区平均正答率とほぼ同じレベルとなっています。内容正答率では、物質・エネルギー領域において、目標値を2～3ポイント上回っていて、生命・地球領域の1～3ポイント下回っています。	3観点のうち、「思考・判断・表現」において、目標値、区平均、全国平均のいずれも数ポイント上回っています。一方、他の2観点では、いずれも1～3ポイント下回っているという結果が出ています。	全般的に、生命・地球領域において「知識・技能」そして、「主体的に取り組む態度」が目標値、区平均、全国平均に届いていないという結果が出ています。物質・エネルギー領域においては、「思考・判断・表現」の観点が、目標値、区平均、全国平均を上回っています。

国 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
校内の平均正答率は69.6ポイントと、目標値を2.9ポイント上回っています。また、全国の平均正答率よりも2.4ポイント上回っています。内容別正答率では、「物語の内容を読み取る」以外は全て目標値を上回っていますが、区平均から見るとほとんどの項目が下回っています。	目標値、全国平均と比較すると全ての項目で上回っています。区平均と比較すると「知識・技能」は0.4ポイント「思考・判断・表現」は0.9ポイントと下回っていますが、「主体的に学習に取り組む態度」は2.4ポイント上回っています。	内容と観点をそれぞれ分析すると目標値をほぼ全て上回っているため、前学年の学習内容が身に付いていると分析します。唯一「我が国の言語文化に関する事項」が平均を下回る結果だったため、今後の課題です。
社 会		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
校内の平均正答率は60.5ポイントと、目標値を4.0ポイント下回っており、区平均も3.9ポイント下回っています。内容別正答率でみると、「日本の水産業」は目標値から9.9ポイント上回っていますが、「日本の食料生産」は10.7ポイント下回っています。	3観点とも、目標値、区平均値、全国平均値等全てにおいて下回っています。区平均と比較すると、「知識・技能」は3.2ポイント、「思考・判断・表現」は4.9ポイント、「主体的に学習に取り組む態度」は3.3ポイント下回っています。	既習事項の定着が不十分であり、復習や問題演習の不足により知識・技能の習得につながっていないと考えられます。現在学習している分だけでなく、既習事項の復習を行い、確実に定着させることが今後の課題です。
算 数		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
校内の平均正答率は目標値に比べると1.8ポイント上回っています。内容別正答率では、ほとんどの項目で目標値を上回っていますが、「割合」「円グラフ・帯グラフ・平均」は約2.3ポイント下回っています。また区平均から見ると全ての項目が下回っています。	目標値、全国平均と比較すると、全ての項目で上回っています。しかし区平均と比較すると「知識・技能」で2.7ポイント「思考・判断・表現」で3ポイント、「主体的に取り組む態度」で1.3ポイント下回っています。	内容と観点をそれぞれ分析すると、既習事項の定着が不十分であると考えられます。復習や問題演習を繰り返し、着実に力をつけるようにすることが今後の課題です。
理 科		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
校内の平均正答率は、55.0ポイントと目標値を6.2ポイント、区平均を4.3ポイント下回っています。内容別正答率をみると「魚のたんじょう」は目標値を0.2ポイント上回っています。その他は全て目標値・区の平均値より下回っています。	いずれについても、目標値・区平均・全国平均より下回っています。その中でも、「知識・技能」「思考・判断・表現」の幅が大きいという結果が出ています。	内容と観点をそれぞれ分析すると既習事項の定着が不十分であり前学年の内容が身につけていないと考えられます。日々の生活と学習内容が関連付けて考えられるようにすることが今後の課題です。
外 国 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
校内の平均正答率は、目標値に比べると3.9ポイント上回っています。内容別正答率では、ほとんどの項目で目標値を上回っていますが、「英文の完成」「英作文」では、約3ポイント下回っています。また、区の平均から見るとほとんどの項目で平均正答率を下回っています。	目標値と比較すると、「知識・技能」「思考・判断・表現」は3.0ポイント程度上回っていますが、「主体的に取り組む態度」は2.7ポイント下回っています。区平均正答率と比べるとすべての項目で下回り、特に「思考・判断・表現」は3.4ポイント下回っています。	「知識・技能」として学習した単語や表現が、音としては捉えられていても文字として捉えることができていません。音として捉えた単語と文字の一致をさせることやそれを適切に活用することが今後の課題です。

〔様式3〕

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（国 語）

東京都北区立都の北学園

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
1年	清音、濁音、促音、拗音、長音が入ったひらがなを担当が読み上げて児童が書くひらがなテストを行いました。全問正解が約6割で、特に書けなかったひらがなは促音と拗音が入ったひらがなでした。6月上旬にひらがな50音の指導が終わったので、引き続き指導を重ねる必要があります。	促音、長音、拗音が入った言葉は、書くだけでなく拍が分かるように読む工夫を取り入れていきます。また、語彙が少ないという実態があるので、ペア活動でしりとりをしたり、詩集を読んだりし、多くの言葉や文章に触れる機会を設けていきます。書く活動も増やし、繰り返し指導していきます。	家庭学習では、ひらがなプリントの裏面が終了後、促音が入った言葉のプリント等に取り組んでいきます。今後、拗音、長音が入った言葉のプリントも行っていきます。漢字指導が始まった後は、小テストをこまめに行って理解を把握し、必要に応じて個別指導も行っていきます。
2年	分析結果によると、自分の思いを書いたり、見たことを基にして考えを発表したりすることが目標値を下回りました。朝の会のスピーチや授業中のグループ学習では、自分の意見を発表する機会がありますが、順序立てて話したり、筋道を自分なりにまとめたりすることに課題があります。	「はじめ・中・おわり」や根拠等を意識して書くことができるように、ワークシートを活用します。また、ワークシートを確認しながら発表する機会を増やすことで、自分の考えが相手に正しく伝わった経験を味わわせ、「話のまとめ方・伝え方」について意識できるよう指導していきます。	週末の家庭学習における、日記の指導を継続して行っていきます。また、朝の会のスピーチの準備に、ワークシートを活用し、言いたいことを筋道立ててまとめられるようにします。予め内容について準備をし、家庭で練習することで、書いたり発表したりすることの成功体験を積み重ね、力を付けていけるようにします。
3年	物語の読み取りや文章を書くことに課題があります。領域別においても「読むこと」「書くこと」において区平均と比較して5ポイント弱下回っています。物語での登場人物の気持ちや、その変化の読み取りや、自分の考えを文章化することを積み重ねて指導をしていく必要があります。	物語や説明文の読み取りを強化していくために、今後学習する「ちいちゃんのかげおくり」や「モチモチの木」では登場人物の心情の読み取りを丁寧に指導していきます。また、「書くこと」においては家庭学習等で定期的に日記等を書くことを通して、書く内容の中心や伝えたいことを明確にして書くことを積み重ねていきます。	授業内だけでなく、国語タイム等も活用しながら、物語の読み取りの指導のための時間を確保していきます。書く学習においては、書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合う時間を意図的に設定し、自分の文章のよいところを見付けられるようにします。
4年	分析結果より、漢字の読み書きや情報から読み取ったことを基に自分の考えを構築し、文章を書くことに課題があることが分かりました。特に後者は、複数の資料を読み取ること、必要な情報を選ぶこと、自分の考えを文章化することなど段階を追って指導を重ねる必要があります。	前学年までの漢字の読み書きの再確認及び定着を図るため、朝の学習時間等を使い、復習に取り組みます。また、4年生での学習漢字は、ドリル等を使いモジュールの時間等を使い、繰り返し指導をします。さらに、日常の授業において、自分の考えをもち、ノート等へ書き、伝え合うことに力を入れます。	週末の家庭学習のために新聞記事を使ったワークシートを作成します。記事を読み、見出しを付けたり要約したりし、さらにそこから考えたことを理由とともに書く内容です。子ども新聞から始め、一般誌へと移行することで、社会事象から情報を得る力を育成します。
5年	教科全体としては、目標値を8.2ポイント上回っています。3観点全体においても目標値をすべて上回っています。内容別で見ても目標値を上回っていますが、区平均と比較すると「言葉の学習」のみ下回っています。領域別で見ると、「読むこと」のみ区平均を下回っており、引き続き指導を重ねる必要があります。	言葉の学習の分野を強化していくために、言葉の復習を授業内で週1回以上取り入れていきます。また、単元指導を計画的に行い、指導事項のどの力を重点的に付けるのかを明確にしていきます。また、大切な言葉を押さえながら要約する習慣を身に付けさせていきます。	説明文では要約の仕方を指導し、段落ごとに要約する練習を積み重ねていきます。また、筆者の考えを要旨にまとめる学習も適宜取り入れていきます。また、目標値を大きく下回る児童に関しては、学年をさかのぼっての漢字学習や、視写を中心とした句読点の使い方等、言語に関する学習を補完していきます。
6年	教科全体としては、目標値を2.9ポイント上回っています。3観点全体においても目標値をすべて上回っています。内容別で見ても「物語の内容を読み取る」を除いて目標値を上回っていますが、区平均と比較すると「文章を書く」2項目が下回っており、課題も見られます。	「物語の内容を読む」ことを強化していくために、9月から学習する「やまなし」の単元は指導を計画的に行い、丁寧に読み取りをしていきます。また、「文章を書く」分野を強化していくために、言葉の学習にも力を入れ、分からない言葉を辞書で調べ語彙を増やしていけるようにしていきます。	「比べて読もう新聞コンクール」での新聞記事の要約や「少年の主張」での意見文を書く活動を通して、自分の考えを文章にすることや相手に伝わるような文章構成の仕方について学習を補完していきます。書いた文章を読み返し、自分が書いた文章を校正してよいものにする力をつけていきます。

〔様式3〕

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（社 会）

東京都北区立都の北学園

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
3年	具体的に調べてみたいという意欲は多くの児童にあります。しかし、資料を活用して、必要な情報を得て、調べた内容から自分で考えたことを表現、説明することに苦手意識も見られます。3年生から始まった社会科の進め方を丁寧に指導していく必要があると考えています。	積極的に地図帳やICT等を状況に応じて活用することで反復練習の形で学習していきます。また、教師側が意図した資料を渡し、調べることを焦点化するなどし、効果的な調べ学習を行えるようにします。表現力については、ノートによる自由記述を繰り返すことで、課題に対して自分の意見や考えを書くことに慣れさせていきます。	社会の学習時間に適宜、地図帳に親しむ時間を確保し、プリント学習などを通して学習の定着を図ります。自分の意見や考えを表現する場面を作り、書き方の指導を行っていきます。
4年	意欲的に学習に取り組む児童が多く、疑問に思ったことは調べ、ひとつひとつ問題を解決しながら学習を進めています。しかし、興味関心の度合いの違いから学習内容の定着については個人差があり、課題となっています。また、課題の読み取りが難しい児童への助言が必要と考えています。	時間ごとの課題をより明確にしていきます。また、板書を写し取る早さに個人差があるため、記述の時間を毎時間つくります。気付いたことや考えたことを整理しながら記入させ、自分だけのノートをつくることができるようにします。	学習内容の定着を図るため、プリントを活用し、学習したことの振り返りができるようにしていきます。発展指導は、調べたことや理解できたことを分かりやすく伝えることができるように、表現するための力を高めていきます。
5年	意欲的な態度で学習に向き合っています。学習を展開させる意図の発問に対し、複数の考えを表現できるので、多角的に学習が発展していきます。しかし、学習内容の定着については、個々に差異が大きく生じており、今後の課題となっています。	学習課題を明確に視覚化し、児童に提示していきます。「わたしたちの国土」の領域、産業においては他業種に関連する事項については、既習内容を反復し、学習内容を確実に定着させる必要があります。既習事項の小テストをルーティーン化していきます。	補充については白地図やプリント等を活用して、実際に手を動かし視覚化させ定着を図っていきます。発展指導は、児童の疑問、つぶやきや意見から、タブレット端末等を活用した調べ学習につなげ、表現する能力を高めさせていきます。
6年	意欲的に学習に取り組む児童が多く、疑問に思ったことは自主的に調べたり、進んで話し合ったりしながら学習を進めています。しかし、分野によって苦手意識のある様子も見られており、「世界の中の国土」「日本の食料生産」を目標値を10.0ポイント下回っています。学習の定着について、工夫した学習方法が必要となっています。	学習した単語をただ暗記するのではなく、資料や本、きたコンを活用しながら、読み取りや社会的事象の関連または意味を考えるなど、理解を深める活動を取り入れていきます。また、学んだことを活用して取り組む活動を計画し、学習したことを確実に定着させていきます。	復習プリントや小テストを取り入れ、児童の理解度を確認していきます。テストで間違いが多い問題は、全体で確認する時間を設け、定期的に復習を行っていきます。

〔様式3〕

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（算 数）

東京都北区立都の北学園

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
1年	10までのたし算・ひき算は正答できるが、時間を要する児童がかなりいます。また、文章題は問われている意味がわからず、正答できない児童も多いです。問題文をきちんと読み取る力を身につけていくことが課題です。	・授業の始まりに計算カードやフラッシュカードに取り組み、計算する時間を確保します。 ・文章題は意味を確認しながら半具体物などを用いて一斉指導し、復習では多くの問題に取り組むように単元計画を立てていきます。	・宿題で計算プリントなどに取り組ませ、習熟を図っていきます。 ・ペアで考え方を伝え合う時間を設け、自分の考えを伝え、聞く学習を取り入れていきます。 ・個に応じた指導を適宜行っていきます。
2年	教科全体としては、全てにおいて目標値を上回っていましたが、その中でも「ひき算」と「水のかさ」については、さらに正答率をあげる余地がありそうです。基礎的な計算問題を確実に解いたり、2年生で学習する単位を体感的に理解したりする力を身に付けていくことが課題です。	・授業の初めに、基礎的なたし算・ひき算の練習問題に1分間取り組み、反復練習による計算力の向上を目指します。 ・単元の合間に、2年生で学習する単位について振り返る時間を設定し、単位換算や計算の仕方について全体で確認することで、基礎的な知識・技能の定着を図ります。	・既習事項について、毎日の宿題で必ず振り返りができるようにし、学力の定着を図ります。 ・学習の到達度に応じて、休み時間や放課後等の時間を利用し、個別に指導する機会を設けられるようにします。
3年	練習問題に取り組む時間を毎時設定することができておらず、「知識・技能」の十分な定着につなげることができませんでした。また、分析の結果から図形の学習を苦手としている児童が一定数いることが分かりました。特に作図問題において正答率が低く、前学年までの学習内容が十分に定着していないことが考えられます。	・授業の終わりに、児童が習熟度に合わせて練習問題や学習プリントに取り組むことができる時間を設けます。 ・単元や授業の初めに既習事項を振り返り、本時の課題に取り組むための素地を整えます。活動の見通しをもたせ、課題解決のための具体的な手だてを理解させた上で自力解決に向かうことができるようにします。	・児童の実態に応じて、理由や背景にまで考えを深めることができるように教材や課題の提示の仕方を工夫をします。 ・学習した内容を次の学習や生活に活用していけるように、振り返りの視点を提示し、学習の有用性を確認します。さらに、振り返りの内容を発表する時間を設け、考えを広げる機会をつくります。
4年	計算問題を苦手とする児童が一定数存在しています。また、九九を覚えていない、筆算の繰り上がりや繰り下がり等の知識及び技能が不十分なため、既習の学習内容を生かして問題を解くことや、問題を正確に読み取ることが難しかったと考えられます。	・単元ごとに、既習事項の確認を行います。必要に応じて復習問題に取り組むようにします。 ・授業の終わりに、振り返りの問題を解くことで毎時間の学習の定着を図ります。	・児童の実態に応じて問題の提示の仕方を工夫します。 ・日常の身近な事柄の中で使われている算数の考え方を見付ける学習を取り入れます。 ・習熟度別学習のグループ編成を工夫し、個に応じた指導を充実させていきます。
5年	分析の結果より計算問題を苦手としている児童が一定数いることが分かりました。これは前学年までの既習内容の定着が不十分（九九・整数のわり算・筆算など）なことが考えられます。また公式をただ暗記しているだけで、意味理解までは不十分なため活用して考えることが苦手です。	・単元のはじめには関連する既習事項の復習をします。また必要に応じて、復習問題に取り組むようにします。 ・問題→見通し→自分の考え→みんなの考え→まとめ（振り返り）という授業展開を行っていくことで、公式を暗記するのではなくなぜ公式が成り立つのかを考える機会を設けます。	・児童の実態に応じて問題の提示の仕方を工夫します。 ・考えの相違点に着目させたり、他の人の考えを説明したりして考えを広げる機会を増やします。
6年	演習問題を解く時間を毎時間十分に設定できず、「知識・技能」の反復練習が不足していました。また問題に対する自分の考えを書くことはできるようになりましたが、そこから他の友達との考え方の比較検討が不十分で、考えをより深めることができていません。	・授業の終わりに、反復練習ができるドリルやワークシートを用意し組みませ、基礎基本の定着を図るようにします。 ・考え方を比較検討する際の視点を示すようにし、どの解き方がよりよいのかを話せるようにします。	・児童の習熟度に応じて、復習問題や既習問題を想起させてから新しい課題に取り組ませるようにします。 ・全体で比較検討する前に、ペアで考え方を説明したり、他の人の考え方を自由に見たりする時間をつくるようにします。

〔様式3〕

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（理 科）

東京都北区立都の北学園

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
3年	初めての実験に興味関心をもって取り組む児童が多いです。しかし校内に学習園や校庭がないため、自然観察の単元では限られた環境での学習でICTも活用しながら学習に取り組むことができました。そんな中、記述式の問題では、どのように解答したらよいのか分からない児童もあり、課題があります。	予想や考察を自分の言葉で書けるように、グループ学習等を通して他の人の意見から学びを深める機会を多く作っていきます。また、学習内容が身近なところで、どのように活かされているのか考えながら学習に取り組めるように発問を工夫していきます。	初めての理科の学習のため、学習の流れを丁寧に積み重ねていけるようにしていきます。既習事項を生活に活かしてものづくりをしたり、発表したりする機会をもちます。
4年	設問のほとんどが学習した内容そのものではなく、生活場面と結び付けたものであったり、発展的なものであったりしました。全体的な正答率の低さから、学習の中で学んだことが、生活の中でどのように生かされているのか考える時間を十分に取れていないことが考えられます。また、いくつかのデータから共通点を見いだしながら考えをもつ場面設定にも課題があります。	事象提示に生活場面を取り入れつつ、単元の後半には、学習したことで生活場面を結び付ける時間をもちます。個々が見付けた生活との結び付きを交流することや、蓄積する場所を共有することで考えを広げます。また、様々な実験結果を比較しながらより妥当な考えをもつことができるように、できるかぎり複数の班のデータを板書します。	問題解決学習の一連の流れを繰り返し指導し、特に考察場面については定型を示すようにします。学習で取り上げたものと異なるものを用いて一般化を図ったり、学んだことを生活に生かせるようにおもちゃ作りを行ったりします。また、「個」「グループ」「学級全体」の場面を明確に分け、自分の考えや追究活動への取り組み方を振り返りやすくします。
5年	応用力の方が基礎より数値が下回っていることから、応用力を伸ばす指導が必要であると考えられます。領域別では、生命・地球領域での基礎、及び活用力を伸ばすような指導が課題となっています。	ニュース、新聞等の情報、ICTを活用した映像、さらには校外学習を利用した学習指導の展開を授業に取り入れ、「知識・技能」「主体的に学習に取り組む態度」などを伸ばすよう取り組んでいきます。	日常の学習において、児童の興味・関心や学習意欲を刺激するような題材を準備していきます。そして、積極的に知識・技能を吸収し、主体的に学ぼうとする態度を養成できる機会を今後もつくっていきます。
6年	課題解決のための実験方法を教師主導で提示することが多い傾向がみられます。理科に興味・関心をもてるような授業づくりを推し進めていくとともに、基本的な用語や実験器具の使い方等、知識・理科の定着を図る必要があります。	理科への興味・関心が高まるように、実験や観察の授業である必要を感じます。課題意識をもたせ、解決のための実験方法を自分で考えたり、共有したりする活動をできるだけ取り入れていきます。	授業における導入や展開について、児童全員が興味・関心や学習意欲を刺激するような題材を提供し、自らが主体的に学び取ろうとする態度を養っていきます。また、定期的に振り返りの学習を行い、知識・技能の定着を今後も与えていきます。

〔様式3〕

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（外国語）

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
5年	アルファベットを書く時に、大文字と小文字が混じってしまうという課題が見られます。また、会話の聞き取りが苦手な子が一定数いるため、聞く力を伸ばすような指導が課題となっています。	単語を書いたり、見本を見ながら文章を書いたりし、「書く」活動に慣れ親しむようにします。また、教科書の音声を繰り返し聞くことで、聞き取る力を高められるようにしていきます。	授業内でアルファベットを書く時間を確保し、慣れ親しめるようにします。聞き取ることを苦手としている児童に対しては、対話のモデルを何度か見たり、繰り返し聞いたりすることで、徐々に聞き取れるようにしていきます。友達とペアで会話練習もしていきます。
6年	アルファベットを書く時に、大文字と小文字が混じってしまうことや似ているアルファベットと書き間違えてしまうという課題があります。また、聞こえた単語と文字が一致しなかったり、英語でのやり取りができていてもそれを文字に表すことができなかったりするという課題があります。	単語を書いたり、見本を見ながら文章を書いたりし、「書く」活動に慣れ親しむようにします。また、ALTが発音している単語がどれかや、どの文章なのかを意識して見たり聞いたりし、単語と音声の一致を目指していきます。	授業内で書く活動を作り、十分に慣れ親しんだ単語やフレーズを書けるようにします。聞く活動だけでなく、自分で実際に発音し、やり取りをすることで単語に慣れ、書く活動につなげていきます。